

センバツ初戦へ最終調整



▲センバツを目前にしてバッティング練習にも力が入る。



▲投手の動きを見て勢いよくスタートを切る三塁走者（一番左）



▲練習には多くのOBが訪れた。



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

実践的な練習で確認を行う

現在開催中の第90回記念選抜高等学校野球大会（以下センバツ）に出場する本校野球部が、28日に行われる初戦を前に、彦根球場で練習を行った。

赤鬼の春 25



▶打撃練習ではヒット性の打球も多く見られた。

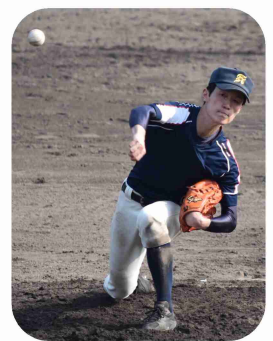
本校の甲子園初戦となる慶応高校戦を3日後に控えた3月25日、本校野球部員が県立彦根球場で練習を行った。球場練習は朝早くから夕方まで行われ、午後からの練習には昨年の夏の甲子園に出場したメンバーを中心とした野球部OBも参加した。

午前中の練習ではポジション別のノックや、1アウト3塁などのさまざまな状況に応じた攻撃練習などが行われた。午後からはOBも練習に加わり、試合を想定した実践的な練習が行われた。昨年夏の甲子園出場時にベンチ入りしていた3年生部員の半数以上が参加しており、充実した内容

となった。

今年のチームで主将を務めていた松井拓真君（3-5）は「一冬越したことでスイングの速さや力の強さで成長している部分が見られた」と現在のチームの変化を話した。

同じく練習に参加していた條野正宗君（3-7）は今年のチームの打撃について「投手のスタミナが落ちたときにもしっかり打つことができているので、打者は強いと思う」とコメントした。また、吉本孝祐君（3-4）は今年のチームを「全体的なレベルが高く個々の能力も高い」と高く評価したが、改善すべき点もあるようで「僕らのチームに比べて静かなので、もっと盛り上がるってほしい」とアドバイスした。原辰也君（3-8）は「今の1・2年生は成長していたが、もっと強くなれる。僕らは甲子園で一勝しかできなかっただったので、もっと勝ってほしい」とエールを送った。



▶練習では松井君がマウンドから投球を送る場面も見られた。